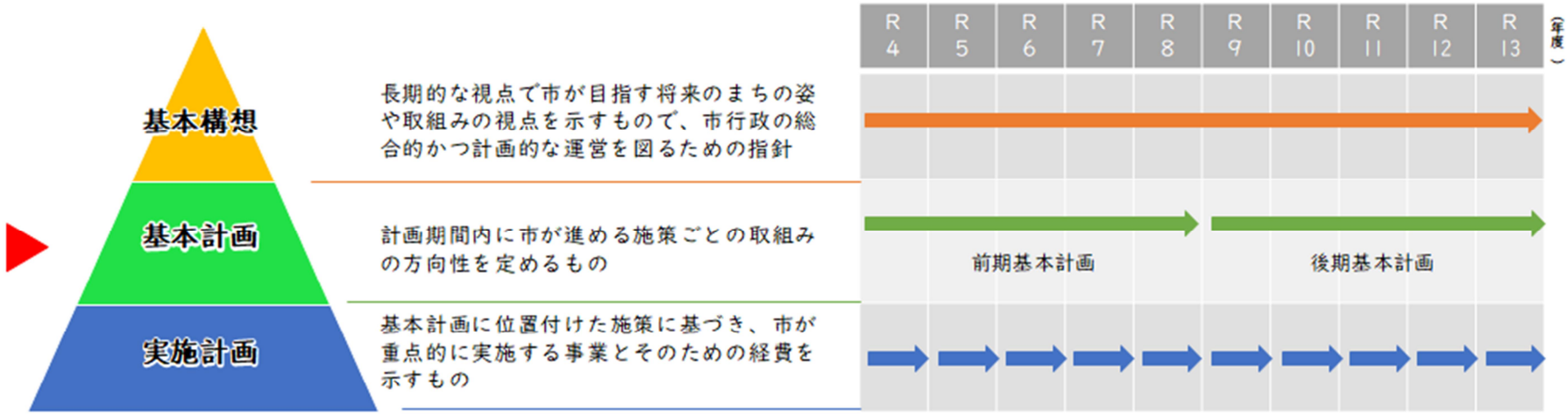
長期総合計画審議会	資料20
令和8年 10 月 7 日	

コンセプト４　にぎわいを創る

羽村市長期総合計画の構成と期間



未来を築く５つのコンセプト及び自治体運営の方針

自分らしく生きる

生涯にわたり、だれもが、家庭、学校、職場、地域などで、自分らしい生き方ができるまちを目指します。

成長をはぐくむ

子どもから高齢者まで、生涯を通じて成長し、さまざまなつながりを持ち続けることができるまちを目指します。

スマートにくらす

自然環境を大切にしながら、日々の“くらし”の中で、便利さや快適さが感じられるまちを目指します。

にぎわいを創る

市内経済活動の基盤強化や市内産業の活性化を図り、羽村市を訪れる人との交流の輪を広げることで、にぎわいがあふれるまちを目指します。

くらしを守る

災害や犯罪などから、自助・共助・公助により、私たちの“くらし”を守ることができるまちを目指します。

自治体運営の方針

1. 新たな時代に順応した行政サービスの提供

2. 健全な財政運営

コンセプト４
にぎわいを創る
～産業、観光分野～

市内経済活動の基盤強化や市内産業の活性化を図り、羽村市を訪れる人との交流の輪を広げることで、にぎわいがあふれるまちを目指します。

施策と方向性

施策１
先端技術産業が集まるまち

施策の方向性
1 羽村市への進出の支援
2 企業間などのつながりの強化
3 新たなチャレンジの支援

施策２
市内産業が元気に活動するまち

施策の方向性
1 継続的な操業や新規創業・就農の支援
2 産業分野間の連携の強化
3 人材の確保や育成の支援

施策３
人が集まり、交流を生むまち

施策の方向性
1 羽村市の魅力の向上
2 来訪者とのつながりの創出
3 羽村市の魅力の発信

施策 1

先端技術産業が集まるまち

産業振興と都市計画の両面から、先端技術産業を始めとする企業誘致や、新たな産業の創出を図るとともに、産業集積による開発拠点の形成と市内既存産業との連携を促進していくことに取り組みます。

現状と課題

◆　ロシアによるウクライナ侵略や中東情勢の不安定化、米中間の競争激化などを背景に、国際的な供給網を取り巻く不確実性が高まっています。こうした状況を踏まえ、企業においては特定地域への過度な依存の低減やサプライチェーンの強靭化に向けた取組が進められており、生産・調達体制の見直しなどの動きがみられます。市への問合せや企業活動支援員の活動等を通じても、市内における工場や事業用地の取得など、様々な立地ニーズがみられます。本市では、都市基盤の整備や立地奨励の制度により企業誘致を促進してきており、その結果、製造業や医療分野など、多彩な先端技術関連企業の集積が進んでいるほか、農業分野でも、最先端の技術を取り入れる企業が参入しています。これまでの実績を生かしつつ、先端技術産業の特徴や強みを市内外に積極的に発信するとともに、企業が安定して活動を続けられる環境の維持や未利用地の情報収集を更に進め、変化の激しいビジネス環境にも柔軟に対応できる魅力的な立地環境の整備に取り組んでいく必要があります。

◆　世界規模の市場競争に打ち勝つための「企業間の連携」や、デジタル技術の急速な普及に伴う「オープンイノベーション※」の重要性がこれまで以上に高まっています。本市では、「地域産業振興懇談会」への参加、異業種交流会の開催等を通じて企業間のネットワークづくりを支援してきました。今後は、企業間のマッチングや異業種間のコラボレーションをさらに活発にし、新たな気付きや商品開発が生まれるよう、市内産業全体の持続的な発展を支える強固な体制づくりが求められます。

※　オープンイノベーション…組織の枠を越えて技術やアイデアを融合させること。

◆　AI、IoT※等の先端技術の急速な進展に伴い、これまでのビジネスモデルの転換や新しい分野への事業展開の必要性が高まっています。本市では、新たな創業や新事業への支援に向けて、創業支援補助金や「ｉサロン※」の活用を進めてきました。地域の活力を維持・発展させるためには、これまでの実績をベースに、最新の市場動向や先端技術を取り入れた企業のチャレンジを支援し、地域の活力を生み出す新しいアイデアが形になる創造的な環境を整えていくことが求められます。



市民の声

〇地域の企業と連携して羽村がよくなるものを創り出してほしい。
〇工場を発展させ、景気を良くしてほしい。
〇小さな工場をどんどん増やしていくと良いと思う。

※ IoT…家電や機械、センサーなど様々なモノをインターネットにつなぎ、情報を収集・活用する技術のこと。
※ ｉサロン…産業福祉センター内に設置しているスペースのことで、創業のための情報収集や情報発信のほか、作業、ミーティングなど、創業をお考えの方や創業後間もない方が利用できる。

施策の方向性

方向性1 羽村市への進出の支援

❶　企業が操業しやすい環境を整えるため、市内への進出を希望する企業等のニーズに合わせ、関係機関と連携したきめ細かな支援や情報提供を行います。あわせて、市内外へ本市産業の魅力を積極的に発信するとともに、限られた工業用地等に関する情報提供及び計画的なまちづくりによる誘導を促進します。

❷　企業が操業しやすい良好な環境を維持し、先端技術産業の研究・開発拠点がさらに形成されるよう、地区計画等による適切な土地利用の規制、誘導を図ります。

方向性2 企業間などのつながりの強化

❶　企業相互の交流の場や業種・分野を超えた企業間の連携などが促進されるよう、異業種間のコラボレーションやマッチング機会を創出し、企業の付加価値を高める取組を支援します。

❷　市内産業全体の持続的な発展を後押しするため、デジタル技術の活用や経営基盤強化等に対する支援を行うとともに、企業間の情報共有やマッチングの機会を創出します。

方向性3 新たなチャレンジの支援

❶　地域の活力を生み出すため、先端技術を取り入れたビジネスの変革や新分野への挑戦を後押しするとともに、地域に密着した創意あふれる先進的な事業展開を支援します。

施策 2

市内産業が元気に活動するまち

羽村市の経済活動を支える工業・商業・農業・観光業が、それぞれの事業者の個性を大切にしながら、相乗的に発展していけるよう、経営基盤の強化と次世代への継承を支援し、市内産業の魅力向上に取り組みます。

現状と課題

◆　物価高騰による経営コストの上昇や経営者の高齢化に伴う事業承継、デジタル化への対応が、中小企業の経営課題として顕著になっています。本市では、こうした課題に対応するため、企業活動支援員による個別訪問や企業支援セミナー、各種助成金等により、市内企業の課題に対応した支援を実施してきました。一方、農業分野では、相続等による農地の減少や農業従事者の高齢化に伴う営農環境の維持が課題となっています。本市では、生産緑地制度の有効活用や農業体験機会の提供等を通じて、都市農業の維持と市民の農業に対する理解を醸成する取組を進めています。今後は、これまでの支援メニューを社会情勢に合わせて柔軟に最適化しつつ、事業者が将来にわたって安心して活動を続けられる経営環境を整える必要があります。

◆　消費者の間では、環境に配慮した商品を選んだり、地元で生産された安心な食材を好んだりするなど、「サステナビリティ※志向」や「地域への関心」が高まっています。本市では、こうした地元のこだわりや魅力を直接届ける場として、羽村市農産物直売所を設けるとともに、「はむら市民と産業のまつり」等のイベントを開催し、工業・商業・農業・観光業が一体となった「にぎわい」を創出してきました。地域経済の更なる活性化に向けて、こうしたイベントで培ったノウハウを活かし、地元産品の消費（地産地消）の拡大や新たな特産品開発、事業者と市民・消費者が互いに理解を深め、産業横断的な取組を今の時代に合わせて進化させることが求められます。

※　サステナビリティ…「持続可能性」のことで、環境・経済・社会がバランスを保ち、将来にわたって良好な状態を維持することを目指すこと。

◆　少子高齢化の進行に伴い、企業における働き手不足が深刻さを増しています。本市では、産学官連携による若者の就業意識の醸成や人材育成支援に取り組んできました。今後は、持続可能な地域経済を実現するため、外国人人材の受入れ支援を含めた企業の採用力向上や社会人の学び直し（リスキリング）の機会の提供を強化するとともに、「羽村で働くこと」の魅力や誇りを市内外に発信し、地域全体で次代を担う人材の育成、呼び込み、定着させる仕組みの構築が求められます。



市民の声

〇羽村で作った物を使用した名産品の製造、ビールやお酒を使ったお菓子など、若い世代にも知名度が上がる工夫をしてほしい。
〇農業従事者が減少している。農業の研修や就農支援を強化して、農地を保全し活用していけるようにしてほしい。
〇求職活動の支援体制を強化してほしい。

施策の方向性

方向性1 継続的な操業や新規創業・就農の支援

❶ 社会情勢の変化に対応し、企業が市内で安定的に事業を継続できるよう、経営基盤の強化やデジタル技術の推進、円滑な事業承継に向けた伴走型支援を強化します。

❷ 都市農業の経営の安定を図るため、生産緑地・特定生産緑地への指定手続等を円滑に進め、農地の維持・管理を支援し、良好な営農環境を整えます。

❸ 持続可能な農業環境を整えるため、市内農産物の活用や農業体験等の機会を通じて、市民や消費者の都市農業に対する理解と関心を高めます。

❹ 地域経済に活力を生み出す新しいアイデアが形になる環境を構築するため、創業や新規就農、新分野への進出など、新たな事業展開を目指す挑戦を支援します。

方向性2 産業分野間の連携の強化

❶ 地域経済を更に活性化させるため、工業・商業・農業・観光業等の各産業分野が連携した、新たな特産品開発やにぎわい創出の取組を推進します。

❷ 市民や市内で働く人が、地域の事業者や農業者の活動への愛着と理解を深めることで、地域全体で市内産業を応援する機運を醸成するため、事業者と消費者が直接触れ合える交流機会を拡充するとともに、市内での積極的な消費・購買行動を促進します。

方向性3 人材の確保や育成の支援

❶ 深刻化する労働力不足に対応するため、外国人を含めた多様な人材の確保や育成、企業の採用力強化、就業者のリスキリングの機会提供について、関係機関と連携した支援を推進します。

❷ 次代の工業、商業、農業などを支える担い手を確保できるよう、技術の継承や後継者育成を支援します。

❸ 子供や若者が羽村市の産業の魅力に触れ、将来の活躍の場として選択できるよう、市内企業での就業体験活動や職場見学など、学校や商工会等と連携し、市内への就業を促す取組を強化します。

施策 3

人が集まり、交流を生むまち

市の魅力発信や、多くの人が集い、交流が生まれる駅周辺などの拠点の整備により、羽村市に関わる人との交流を生み、まちに活気やにぎわいを創ることに取り組みます。

現状と課題

◆　人口減少に伴い、移住・定住だけでなく、観光やビジネスにおいても「選ばれる地域」になるための都市間の取組が活発化しています。人々のライフスタイルが多様化する中で、それぞれの地域の魅力が見定められる時代となっています。本市では、地域との連携による居場所づくり事業である「ポットラックプロジェクト※」や動物を身近に感じる、ぬくもりある動物公園づくり等、市民満足度の向上や来訪者の増加に向けた取組を推進してきました。今後は、羽村ならではの豊かな自然や動物公園、伝統文化などの地域資源を最大限に活かし、誰もが日常的に集える、心地よい空間を創出するなど、羽村の魅力を更に高めることで、多くの人から「訪れたい、関わりたい」と「選ばれる地域」を目指す必要があります。

◆　新型コロナウイルス感染症の影響により大きく減少した訪日外国人旅行者数が回復する中、国においては、地方誘客の促進や観光消費額の拡大、地域資源を活用した高付加価値な観光コンテンツの創出を重視した観光施策が進められています。本市では、観光協会と連携して、近隣自治体と結ぶ広域的な観光ルートの開発や観光ガイドの養成により、来訪者と地域との交流を深める取組を進めてきました。今後は、一度訪れた人が再び足を運んでくれる「リピーター」を確保するため、市内で買い物や食事を手軽に楽しめる環境を整備するとともに、羽村市との継続的なつながりを創出し、まちに活気と新たな交流の輪を広げていくことが求められます。

※　ポットラックプロジェクト…持ち寄るという意味の「ポットラック」をテーマに、公園を、地域の方自身が、「つかう」「つくる」「つなぐ」ことで、様々な世代、様々に暮らす方々にとっての居場所づくり事業のこと。

◆　多くの企業や自治体において、公式 SNS や動画共有サービスなどのデジタル媒体を戦略的に活用し、その時々の見どころを逃さずに届ける手法が主流となっています。本市では、市民記者による地域の魅力発信やＳＮＳの積極的な活用により、子育て世代を対象に情報発信を強化してきました。これまで取り組んできた戦略的なプロモーションにより、「シティプロモーションアワード 2023」で金賞を受賞するなど、一定の評価を得てきました。これらの取組を地域経済の活性化や来訪者の増加につなげていくためには、ターゲットを明確にした戦略的なプロモーションの推進が不可欠です。デジタル媒体の即時性や拡散性を最大限に生かし、地域の情報を多様な主体と連携して効果的に発信し続けることで、市の認知度を高め、将来的な移住・定住につなげていくことが求められます。



市民の声

〇立川駅など人通りの多い駅に、羽村駅周辺の魅力をアピールするポスターを掲示してほしい。
〇羽村市にしかない特徴や魅力を創出・発信してほしい。
〇羽村の堰などの観光資源を有効活用してほしい。

施策の方向性

方向性1 羽村市の魅力の向上

❶ 「選ばれる地域」を目指し、市民満足度の向上と来訪者の増加につなげるため、多摩川や羽村堰などの豊かな自然、動物公園、伝統文化などの地域資源を最大限に生かすとともに、地域の新たな魅力の発掘に取り組みます。あわせて、多様な主体と連携して、四季を通じて誰もが集い、心地よく楽しめる空間や交流機会を創出します。

❷ 郷土愛の醸成やリピーターの確保を図るため、様々なイベントの魅力を市民との協働で向上させるとともに、伝統文化が次世代へ確実に継承・伝承されるよう、関係機関と連携した取組を推進します。

❸ まちのにぎわいを創出するため、医療・福祉・商業などの日常生活に身近な施設が立地されるよう、計画的なまちづくりによる誘導や駅前交通広場などの都市基盤の整備により、交流の拠点となる施設の整備・誘導を推進します。

方向性2 来訪者とのつながりの創出

❶ まちに活気と新たな交流の輪を広げるため、圏域市町村を始めとする近隣市町との連携による広域的な観光ルートの開発や体験型観光メニューを拡充し、来訪者が羽村の歴史や魅力に手軽に触れることができ、継続的な来訪と交流が生まれる仕組みを構築します。

❷ 来訪者と市民との継続的な交流を深めるため、観光ボランティアガイドの活動を支援するとともに、若い世代や新たな担い手への技術・知識の継承と育成を支援します。

方向性3 羽村市の魅力の発信

❶　羽村市の認知度を高め、にぎわいあふれるまちを実現するため、ＳＮＳ等のデジタル媒体や動画を戦略的に活用し、市民が市内の魅力を楽しみ参加する「観光の地産地消」を始め、羽村市の魅力を市内外へ広く届ける取組を推進します。

❷　羽村市の魅力を多様な視点から発信するため、市民や来訪者、事業者の主体的な情報発信を後押しするとともに、多様な主体と連携したプロモーションを展開します。

❸　暮らしやすさや子育てのしやすさといった羽村市の魅力を市内外へ効果的に発信し続けることで、20 代・30 代の子育て世代を中心とした「移住・定住」につながる取組を推進します。

まちづくりの指標

コンセプト「にぎわいを創る」では、令和７年度に実施した市政世論調査の市民満足度を指標とし、その満足度を上回るように取り組みます。

計画の進捗確認は、これらの指標を参考に、社会経済状況や市の取組等を踏まえ、総合的な視点で実施します。

継続的に市民ニーズ等の把握に努め、政策立案に生かしていきます。

このほかにも、実施計画に基づき、個別事業を推進する際に、目標指標を設定するよう、取り組んでいきます。

	指標の項目	基準となる市民満足度（令和7（2025）年度実績） ※令和7年度市政世論調査数値（n=545） ※括弧内は前回（令和２（2020）年度）の数値
1	工業の振興策	55.1%（56.9%）
2	商業の活性化や魅力ある商業環境づくり	45.7%（46.3%）
3	農業の振興と農地の保全	57.4%（59.6%）
4	観光資源の整備やイベントの充実など、観光事業の活性化	53.9%（55.8%）
5	雇用機会の創出	48.3%（51.2%）
6	市の行事や観光情報、事業者・農業者などの活動の PR など、市の魅力発信	58.7%（―）

（※）　市民満足度…令和７年度市政世論調査で把握した各項目の満足度

（「満足である」＋　「どちらかと言えば満足」と回答した人の割合の合計）

SDGsの取組



関連する計画

◇第二次羽村市産業振興計画
◇羽村市都市計画マスタープラン
◇羽村市創業支援事業計画
◇第二次羽村市生涯学習基本計画